

## 事業実施報告書

所在地 団体名 代表者名	富山県富山市西中野町 1 丁目 1-18 オフィス西中野ビル 1 階 102 号 一般社団法人富山県介護福祉士会 会長 舟田伸司
事業名称	介護福祉士実習指導者講習会を踏まえた自職場におけるア ンケート調査
事業の概要	介護福祉士実習指導者講習会受講者、研修を受け具体的に どのような取り組みや介護実習指導等を行ったかを把握 し、研修の効果等を検証するための効果検証等アンケート を実施、集計、分析。 (目的) 新カリキュラムに見直され、「地域生活の支援の実践」への 向き合い方が重要視されることになったが、その後、当該 テーマが実習の中でどのように向き合われているのか実態 の把握ができていないことを踏まえての企画
事業実施期間	令和 4 年 8 月 1 日～令和 5 年 1 月 31 日 (介護福祉士実習指導者講習会開催：9 月 15 日～ 10 月 26 日)
事業実施体制	介護福祉士実習指導者講習会アンケート調査委員会 【委員会：委員 9 名、事務局 3 名】 ・荒山 浩子（富山県介護福祉士会理事） ・飯田 圭路（富山県介護福祉士会理事） ・岩河 さゆり（富山県介護福祉士会理事） ・瀧田 淳（富山県介護福祉士会理事） ・長太 達也（富山県介護福祉士会理事） ・藤山 洋樹（富山県介護福祉士会理事） ・水島 徹（富山県介護福祉士会理事） ・村田 香生里（富山県介護福祉士会理事） ・田原 麻子（富山県介護福祉士会事務局） ・南 友紀（富山県介護福祉士会事務局） ・草島 瑞季（富山県介護福祉士会事務局）
事業対象者	令和 4 年度介護福祉士実習指導者講習会受講者とその上司 (施設の管理者)

様式 7

<p>事業実施スケジュール</p>	<p>6/25：委員会設立。              8/22：アンケート内容を検討。              10/5：研修受講開始時アンケート配付              10/26：研修受講開始時アンケート回収              （受講開始時アンケート：回収 46/配布 46）              10/27～11/28：研修受講開始時アンケートの集計結果分析              11/30：研修受講後アンケート・管理者アンケート配布              12/16：研修受講後アンケート・管理者アンケート回収              （受講後アンケート：回収 26/配布 46）              （管理者アンケート：回収 27/配布 46）              12/17～1/14：アンケート調査結果の集計・分析</p>	
<p>事業の目標</p>	<p>実際の事業によって得られた効果</p>	<p>目標達成度</p>
<p>新カリキュラムの「教育内容に含むべき事項」および「留意点」を踏まえた介護実習を実施するためには、介護実習指導者をはじめとする関係者がこの内容を理解するとともに、養成校の教諭・教員と実習生を受け入れる施設・事業所が適切に連携し、適切な受入体制をもって対応することが求められる。</p> <p>介護福祉士実習指導者講習会受講者が研修を受けた後、自職場において、具体的にどのような取り組みや介護実習指導等を行ったか等について把握することで、当該研修の効果とともに、新カリキュラムにどう対応されているか等を検証する。</p>	<p>アンケートは研修受講開始時と、研修終了後約1か月半後に実施した。</p> <p>実際に取り組んでいる内容については、受講開始時は、現在の取り組み状況において、「介護実習指導を行うためのスケジュールをたてた」が23.9%と最も多く、その他、取り組む予定としている項目の平均は50%程度であった。</p> <p>研修終了後では「職場で研修内容を発表・報告した(情報の共有)」の割合が34.6%と一番高く、今後取り組む予定としている項目の平均は60%程度となった。</p> <p>介護実習を行った実習生については、「介護過程の実践的展開」は約48%が習得できたと回答した一方で、「地域生活の支援の実践」については、習得できたと回答した人が約20%となり、今後の課題が表れた。地域生活の支援の実践については、テキストや研修で学んだだけで直ぐに実践できるものではなく、職場である施設や事業所が今まで培ってきた地域との関わりや歴史にも影響を受ける。管理者へのアンケート結果からも、「実習指導を通して地域の中で施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることが出来るようになった」は、27名中2名と少なかった。</p> <p>本来の目的である「対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域におけ</p>	<p>70%</p> <p>アンケートに答えることで、介護実習指導者をはじめとする関係者が新カリキュラムの内容を理解しているか再確認し、受け入れ施設として適切な受入体制が整っているか、振り返りができた。また今後取り組むべき課題や、養成校の教諭・教員との連携に必要な課題も把握することができた。</p>

	<p>る生活支援を実践的に学ぶ内容」について全ての実習施設で自信を持って指導できているわけではないことがうかがえる。今後は地域生活の支援の実践を率先的に取り組んでいる実習受け入れ施設の実践例を研修にも取り入れるなど、実習指導者だけでなく管理者や受け入れ施設への教育、サポートも必要である。</p> <p>現状と課題が明らかになった他、研修受講開始時と研修終了後にアンケートを記入することで、研修の効果としての行動変容*1 が起きている可能性があり（4:2:4 の法則（プリンカーホフの法則）*2）、現状とこれからの課題、学びの振り返りに繋がっていると考えられる。</p> <p>介護実習指導者研修受講生が記載した研修後アンケートの自由記述より、コロナ禍で多忙の中でも介護実習のためのマニュアルの見直しや、職員全員で受け入れにあたる様に協力している様子が記入されている。また、研修内容や講師に影響を受け、自分の意識も上がりそれが利用者サービス向上に繋がった、多職種協同をさらに意識するようになったと前向きな記述が多くみられる。</p> <p>管理者アンケートは、研修参加職員を客観的に見つめ直す機会にもなっており、「都度状況や状態、家族、他サービスの多方面から、利用者の生活環境を考え支えているが、更に意識が向上したと思われる。」「人に介護を伝えることを学ぶことができた。」「自分自身のスキルアップにつながり自信がついた。」など、肯定的な内容が多くみられた。</p> <p>管理者を巻き込むことで受講生は職場で自信を持って実践できるようになり、また、上司との研修への共通認識、協力により意欲や責任感が増し、研修効果の表れや、行動変容・意識変化にも繋がっている。</p>	
今後の課題	地域生活の支援の実践については介護実習指導者研修受講生だけでなく、受け入れ施設としてもさらなる学びや深化が必要であり、養成校の教諭・教員と連携し指導方法の見直し	

様式 7

	<p>や、管理者等の教育も含めて強化が必要である。</p> <p>介護実習指導者研修受講生は、研修を受講した当初は熱意をもって課題に取り組んでいるが、アンケート結果からも上司や同僚からの協力がないと継続や実現が困難なことが読み取れる。今後も介護実習指導者研修受講生を増やすとともに、アンケートを継続し、研修効果としての行動変容につなげることが重要である。</p>
<p>備考</p>	<p>(参考文献)</p> <p><u>*1 行動変容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「研修評価」の教科書 中原淳・関根雅泰・島村公俊・林博之著 ダイヤモンド社 2022年5月31日 第2部6章・7章</li> <li>・研修設計マニュアル 鈴木克明著 北大路書房 2021年3月20日 第4章・第9章</li> </ul> <p><u>*2 4:2:4の法則(プリンカーホフの法則)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ロバートプリンカーホフ/ATD (国際人材開発機構) 2007 サクセス・ケース・メソッド (SU401)</li> <li>・静岡市新人材育成ビジョン(改訂版) 平成31年3月 静岡市 P18 コラム</li> <li>・「研修評価」の教科書 中原淳・関根雅泰・島村公俊・林博之著 ダイヤモンド社 2022年5月31日 第1部3章</li> </ul>